



魅力ある高校づくりに関するアンケート 調査結果（令和8年2月）

長崎県教育庁高校教育課



アンケート調査の実施について

① 目的

- ・本県における高校再編にかかる大綱の策定にあたり、教職員の意識や関心を探るため公立高校の教職員等にアンケート調査を実施
- ・アンケート調査結果については、高校再編にかかる大綱の策定の基礎資料として活用

② 調査対象【調査期間】

- ・県立中学校及び公立高等学校に所属する教職員(非常勤教職員含む)

【令和8年1月14日～1月27日】

③ 調査方法

- ・Web(Microsoft Forms)

④ 調査項目

- ・p.6参照

<回答数データ①>

調査対象	調査対象数 (人) (①) ※R7.5/1時点	有効回答数 (人) (②)	回答率 (②/①)
県立中学校及び公立高等学校に所属する教職員 (非常勤教職員含む)	2,725	1,264	46.4%

役職別回答数

年齢	有効回答数 (人)	構成比率
管理職	101	8.0%
教諭等	1,103	87.3%
事務職員	60	4.7%
	1,264	100.0%

年齢別回答数

年齢	有効回答数 (人)	構成比率
29歳以下	132	10.4%
30～39歳	193	15.3%
40～49歳	294	23.3%
50～59歳	450	35.6%
60歳以上	195	15.4%
	1,264	100.0%

<回答数データ②>

調査対象	調査対象数（人） （①） ※R7.5/1時点	有効回答数（人） （②）	回答率 （②/①）
県立中学校及び公立高等学校に所属する教職員 （非常勤教職員含む）	2,725	1,264	46.4%

採用年数別回答数

採用年数	有効回答数（人）	構成比率
1～5年	271	21.4%
6～10年	135	10.7%
11～15年	106	8.4%
16～20年	105	8.3%
21～25年	151	11.9%
26～30年	120	9.5%
31～35年	208	16.5%
36年以上	168	13.3%
	1,264	100.0%

担当部活動別回答数

年齢	有効回答数（人）	構成比率
文化部	378	30.0%
運動部	682	53.9%
担当なし	204	16.1%
	1,264	100.0%

<回答数データ③>

地域別回答数

地域	有効回答数 (人)	構成比率	市町	学校
都市部	795	62.9%	長崎市 佐世保市 諫早市 大村市 長与町 川棚町 波佐見町	長崎東、長崎西、長崎南、長崎北、長崎北陽台、佐世保南、佐世保北 佐世保西、諫早、西陵、大村、川棚、波佐見、諫早農業、長崎工業 佐世保工業、大村工業、佐世保商業、諫早商業、長崎鶴洋、佐世保東翔 大村城南、長崎商業、鳴滝夜間、佐世保中央夜間、諫早定時、大村定時 長崎工業定時、佐世保工業定時、鳴滝昼間、佐世保中央昼間、鳴滝通信 佐世保中央通信、長崎東中、佐世保北中、諫早高校附属中
半島部	305	24.1%	長崎市(長崎明誠) 佐世保市(鹿町工業) 島原市 諫早市(諫早東) 平戸市 松浦市 西海市 雲仙市 南島原市 佐々町	島原、諫早東、猶興館、松浦、大崎、西彼杵、国見、小浜、口加 島原農業、北松農業、西彼農業、鹿町工業、島原工業、島原商業 長崎明誠、平戸、島原翔南、清峰、島原定時
離島部	164	13.0%	佐世保市(宇久町) 対馬市 壱岐市 五島市 小値賀町 新上五島町	宇久、対馬、豊玉、上対馬、壱岐、五島、五島南、奈留、北松西、上五島 中五島、壱岐商業、五島海陽、五島定時
全体	1,264	100.0%		

<回答数データ④>

学校タイプ別回答数

学校タイプ	有効回答数 (人)	構成比率	学校
普通	585	46.3%	長崎東、長崎西、長崎南、長崎北、長崎北陽台、佐世保南、佐世保北、佐世保西、諫早西陵、大村、川棚、波佐見、島原、諫早東、猶興館、松浦、大崎、西彼杵、国見、小浜口加、宇久、対馬、豊玉、上対馬、壱岐、五島、五島南、奈留、北松西、上五島中五島、長崎東中、佐世保北中、諫早高校附属中
農業	95	7.5%	島原農業、諫早農業、北松農業、西彼農業
工業	188	14.9%	長崎工業、佐世保工業、鹿町工業、島原工業、大村工業
商業	117	9.3%	佐世保商業、島原商業、諫早商業、壱岐商業、長崎商業
総合	129	10.2%	長崎鶴洋、長崎明誠、佐世保東翔、大村城南、平戸、五島海陽、島原翔南、清峰
定時・通信	150	11.9%	島原定時、諫早定時、大村定時、五島定時、長崎工業定時、佐世保工業定時 鳴滝夜間、鳴滝昼間、鳴滝通信、佐世保中央夜間、佐世保中央昼間、佐世保中央通信
全体	1,264	100.0%	

注) 構成比率は端数処理の関係で、合計が100にはならない。

<質問項目>

- 1 勤務校を選択してください。
- 2 年齢を選択してください。（令和8年3月末時点）
- 3 職名を選択してください。
- 4 採用後の勤続年数を教えてください。（令和8年3月末時点）
- 5 担当している教科を選択してください。（複数教科を担当している場合は主なものを回答してください。）
- 6 担当している部活動を選択してください。（複数担当している場合は主なものを回答してください。）
- 7 性別を選択してください。
- 8 中学生が高校を選ぶ際、【1番目】に重視することは何だと思えますか。
- 9 中学生が高校を選ぶ際、【2番目】に重視することは何だと思えますか。
- 10 中学生が高校を選ぶ際、【3番目】に重視することは何だと思えますか。
- 11 魅力ある高校・学びを創出するにあたり、どういったことが重要であると思えますか。【最大2つまで選択可】
- 12 次世代の高校を創生するという視点で再編整備を進めるために、県立高校にとって何が必要であると思えますか。【最大3つまで選択可】
- 13 現在のあなた自身にとっての仕事のやりがいや働き方を含めた「ウェルビーイング（心身の充実度）」について、どの程度あてはまると思えますか。
- 14 先ほどの問（Q13）の回答理由について教えてください。【任意回答】
- 15 再編後の県立高校の姿についてどのように感じていますか。
- 16 先ほどの問（Q15）の回答理由について教えてください。【任意回答】
- 17 中学生が高校等を選ぶ際にどういった情報が参考にされていると思えますか。（複数選択可）
- 18 高校の魅力を発信するために、どのような取組が重要だと考えますか。
- 19 今後の高校教育の再編の方向性として、あなたの勤務する学校や地域に関する考えなど、ご意見があれば教えてください。【任意回答】

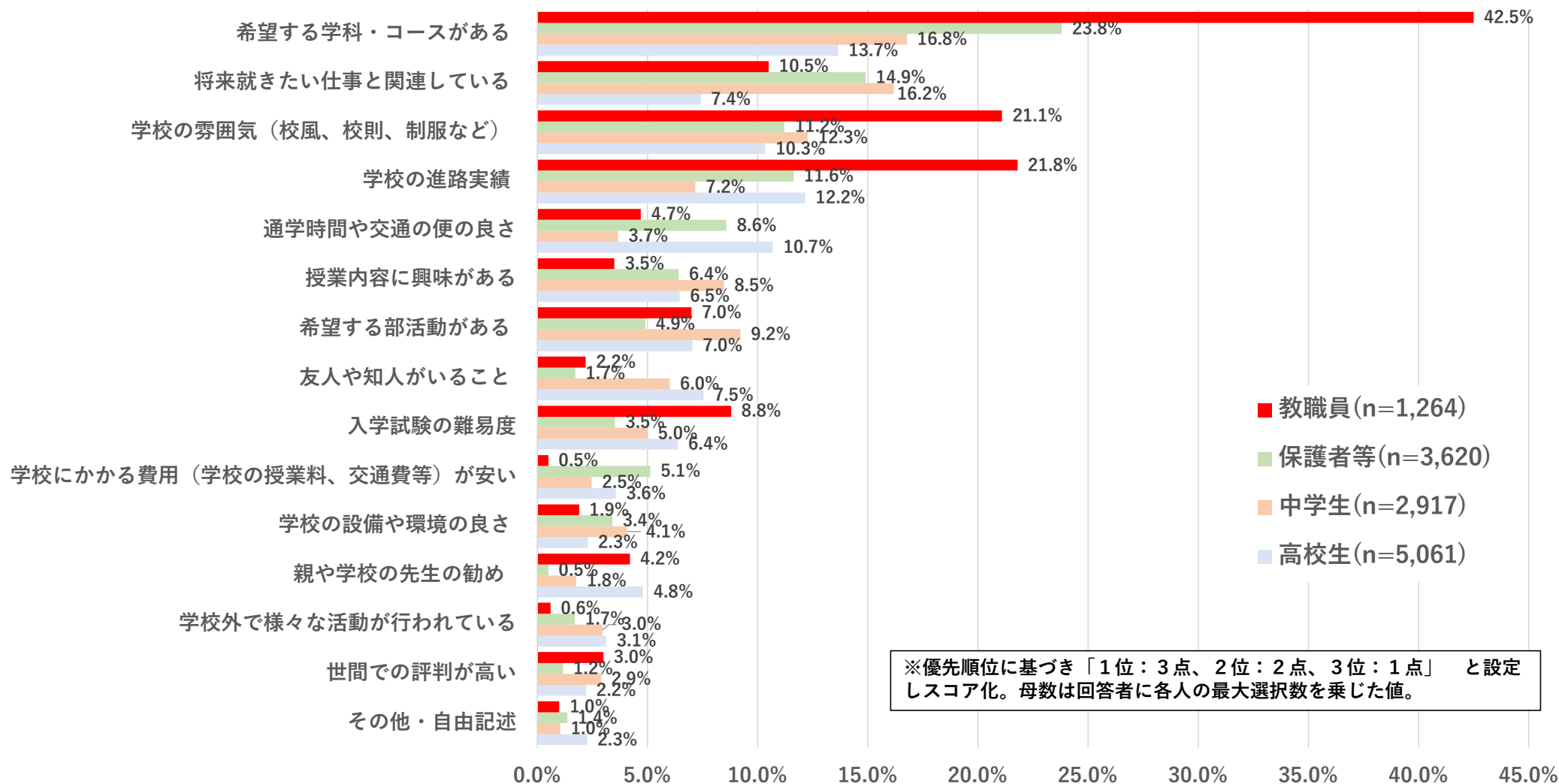
青文字は高校生、中学生・保護者の
ニーズ調査と同等の質問項目

1. 高校進学について

高校進学について①（高校等を選ぶ際に重視する点）

Q. 高校(中学校卒業後の進学先)を選ぶ際に重視する点は何ですか。(3位まで)【属性別】(対象:全属性)

※高校生は重視した点を回答。 ※教職員は中学生が重視していると思う点を回答。

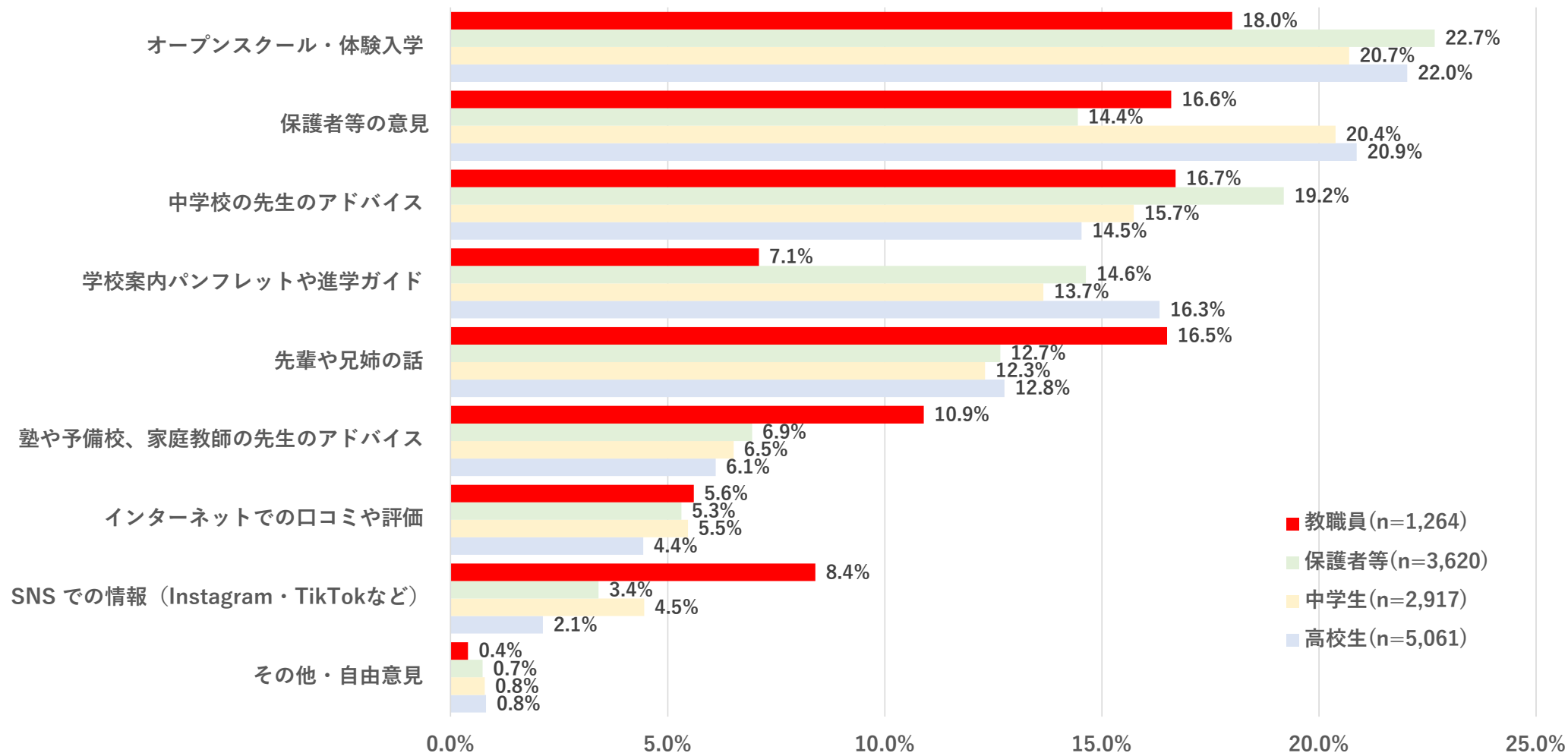


○教職員は4割以上が「希望する学科・コースがある」ことが重視されていると認識しており、高校生・中学生・保護者等よりもその割合は大きい。また、「学校の雰囲気」「学校の進路実績」についても同様の傾向がある。
○教職員や保護者等が思うよりも、高校生や中学生は「友人や知人がいること」を重視している。

高校進学について②（高校等を選ぶ際に参考とする情報）

Q. 進学先(高校等)を選ぶ際に何を参考にするかを教えてください。(複数選択可)【属性別】(対象:全属性)

※高校生は重視した点を回答。 ※教職員は「中学生が高校を選ぶ際に重視すること」は何かを回答。



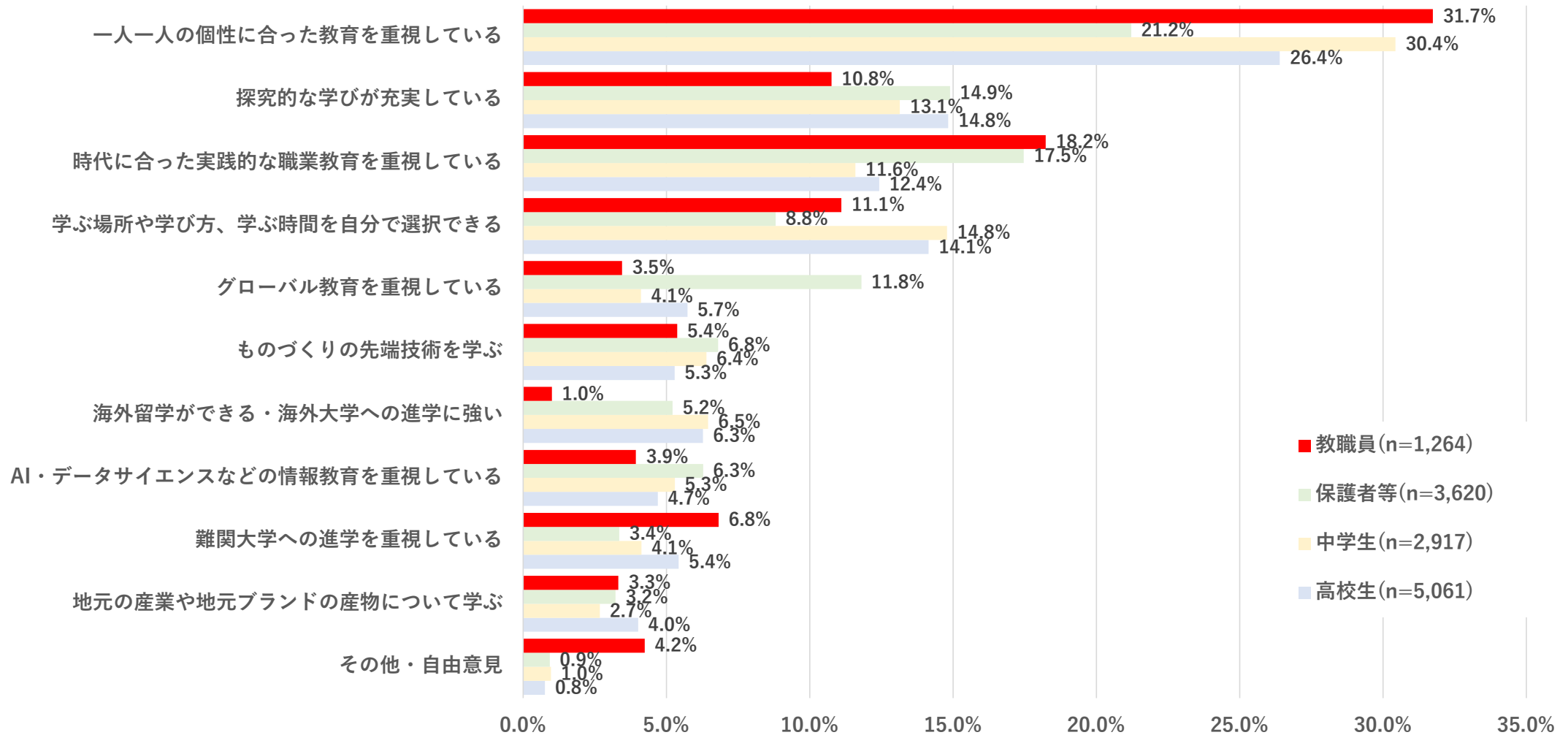
○「オープンスクール・体験入学」「学校案内パンフレットや進学ガイド」「先輩や兄姉の話」「塾や予備校、家庭教師の先生のアドバイス」「SNSでの情報」との回答において、高校生・中学生・保護者等と教職員の認識に差が生じている。

○教職員が考えている以上に、中学生や保護者は、「オープンスクール・体験入学」や「学校案内パンフレットや進学ガイド」などを参考にしている。

魅力ある高校について①（魅力ある高校）

Q. あなたが考える魅力ある高校や学びについて教えてください。(最大2つまで)【属性別】(対象:全属性)

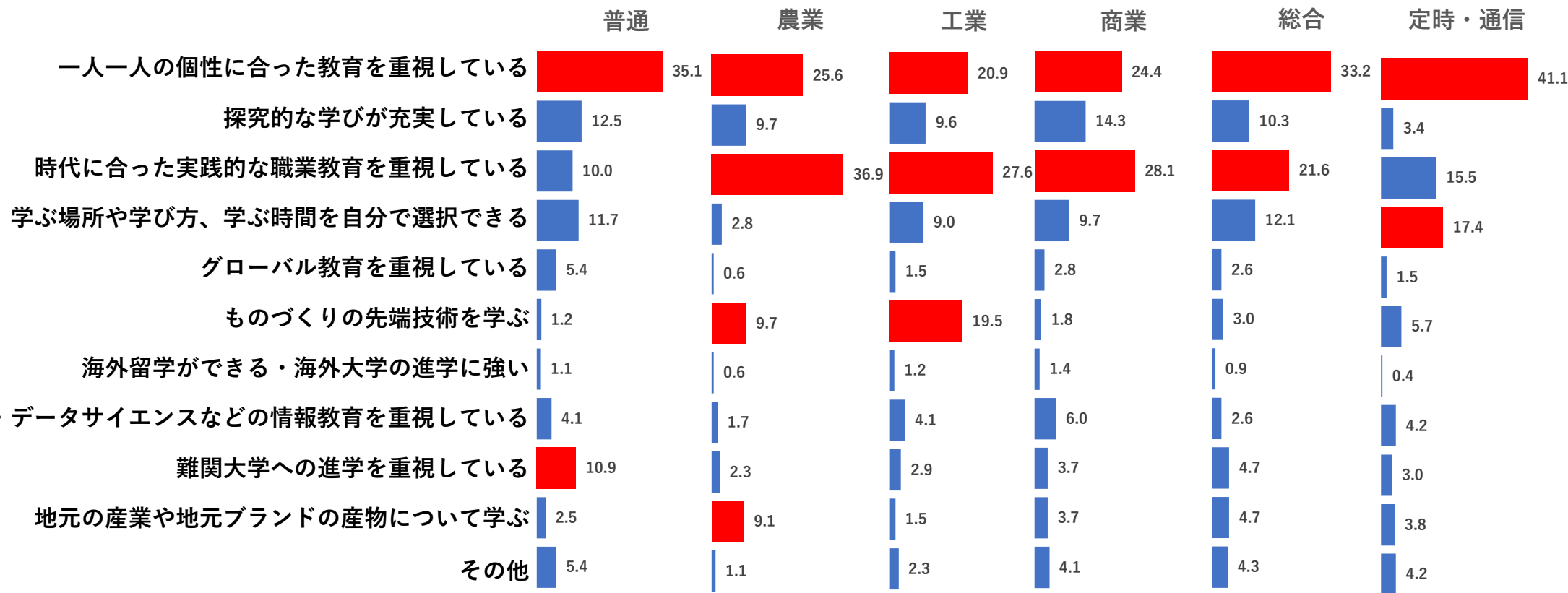
※教職員は魅力ある高校・学びを創出するにあたり、どういったことが重要かを回答。



- 教職員を含むすべての属性において「一人一人の個性に合った教育が重視されている」ことが高校の魅力と考えるとの回答割合が大きい。
- 教職員と保護者等は高校生や中学生に比べ、「時代に合った実践的な職業教育を重視している」の回答割合が大きく、高校生・中学生は、教職員や保護者等に比べ、「学ぶ場所や学び方、学ぶ時間を自分で選択できる」と回答した割合が大きい。
- 教職員は他の属性に比べて「難関大学への進学を重視する」と回答した割合が大きい。

魅力ある高校について②（魅力ある高校）

Q. 魅力ある高校・学びを創出するにあたり、どういったことが重要であると思いますか。
 （最大2つまで）【学校タイプ別】（対象：教職員）

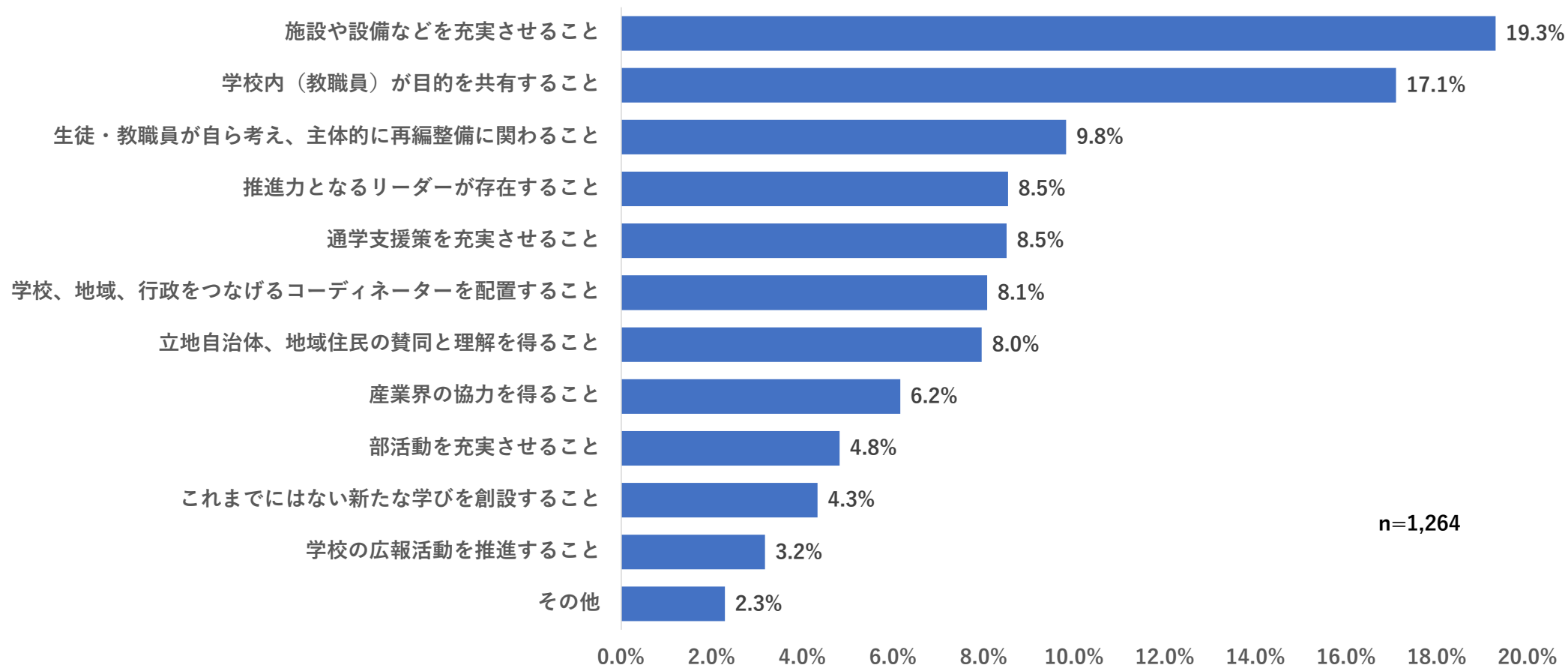


- 普通高校、総合学科、定時・通信では「一人一人の個性に合った教育を重視している」の回答割合が大きく、農業高校、工業高校、商業高校、総合学科では「時代に合った実践的な職業教育」の回答割合が大きい。
- また、普通高校では「難関大学への進学を重視している」、農業高校、工業高校では「ものづくりの先端技術を学ぶ」、農業高校では「地元の産業や地元ブランドの産物について学ぶ」、定時制・通信制高校では「学ぶ場所や学び方、学ぶ時間を自分選択できる」の回答割合が他の学校タイプと比べ大きい。

2. 高校の再編整備について

次世代の高校について①（再編整備に必要なこと）

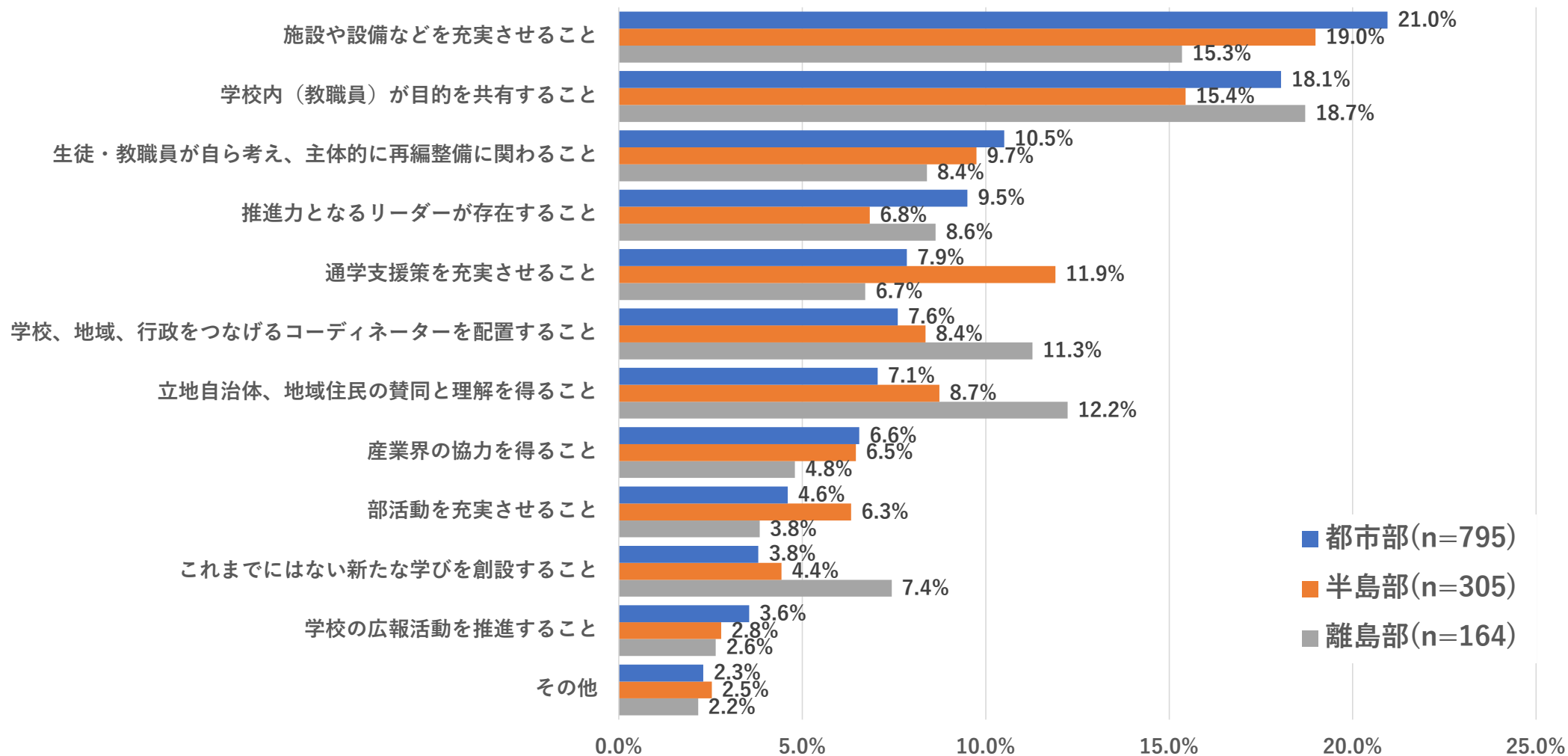
Q. 次世代の高校を創生するという視点で再編整備を進めるために、県立高校にとって何が必要であると考えますか。(最大3つまで)(対象:教職員)



○「施設や設備などを充実させること」が最も重視されている。「学校内(教職員)が目的を共有すること」の割合も大きく、学校全体で取り組むという意識が読み取れる。

次世代の高校について②（再編整備に必要なこと）

Q. 次世代の高校を創生するという視点で再編整備を進めるために、県立高校にとって何が必要であると考えますか。(最大3つまで)【地域別】(対象:教職員)

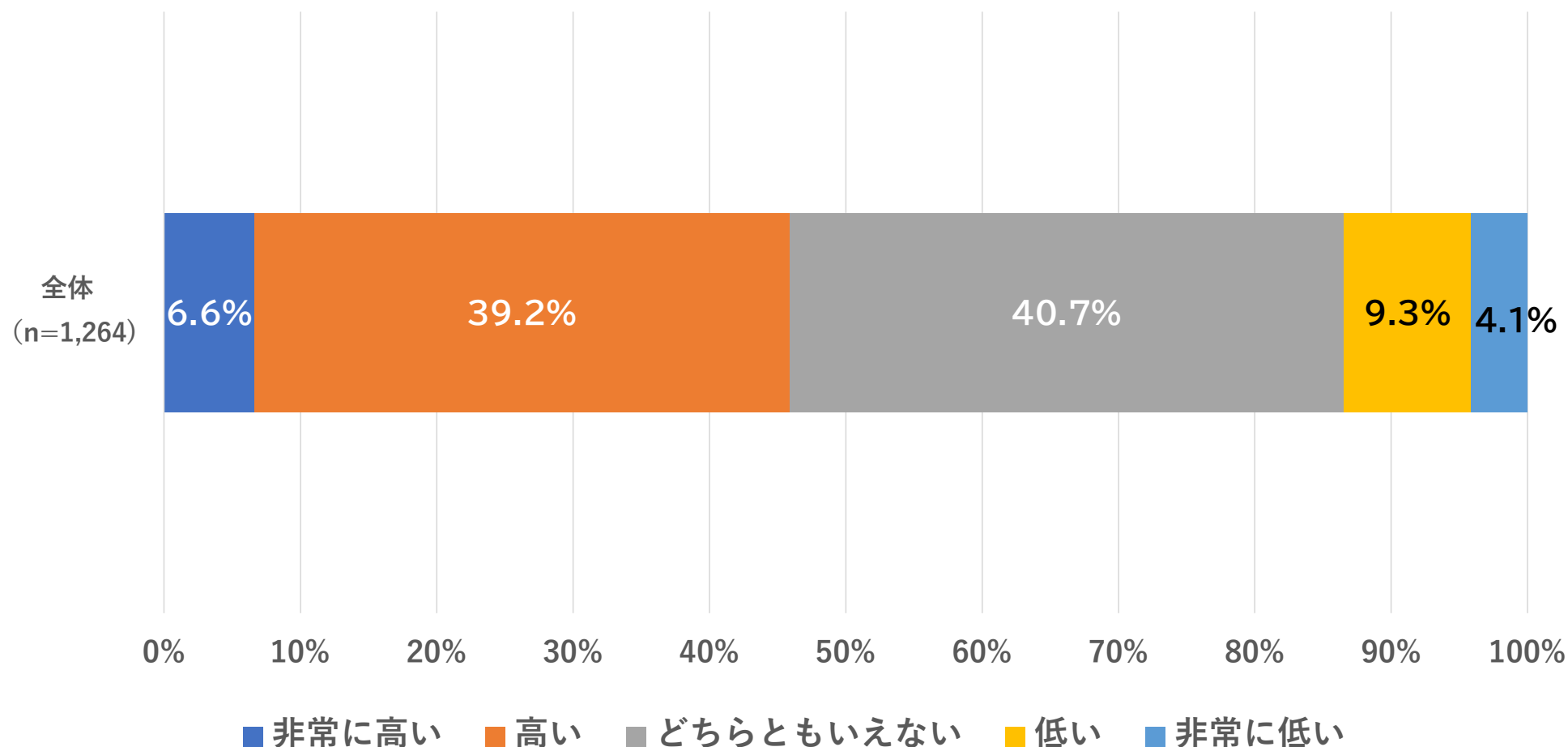


- いずれの地域でも「施設や設備などを充実させること」が最も重視されている。「学校内(教職員)が目的を共有すること」の割合も大きい。
- 半島部では、「通学支援策を充実させること」の割合が大きい。
- 離島部では、「立地自治体、地域住民の賛同と理解を得ること」や「学校、地域、行政をつなげるコーディネーターの配置」の割合が大きい。

3. 教員のウェルビーイング（心身の 充実度）について

ウェルビーイングについて①（教員の働き方）

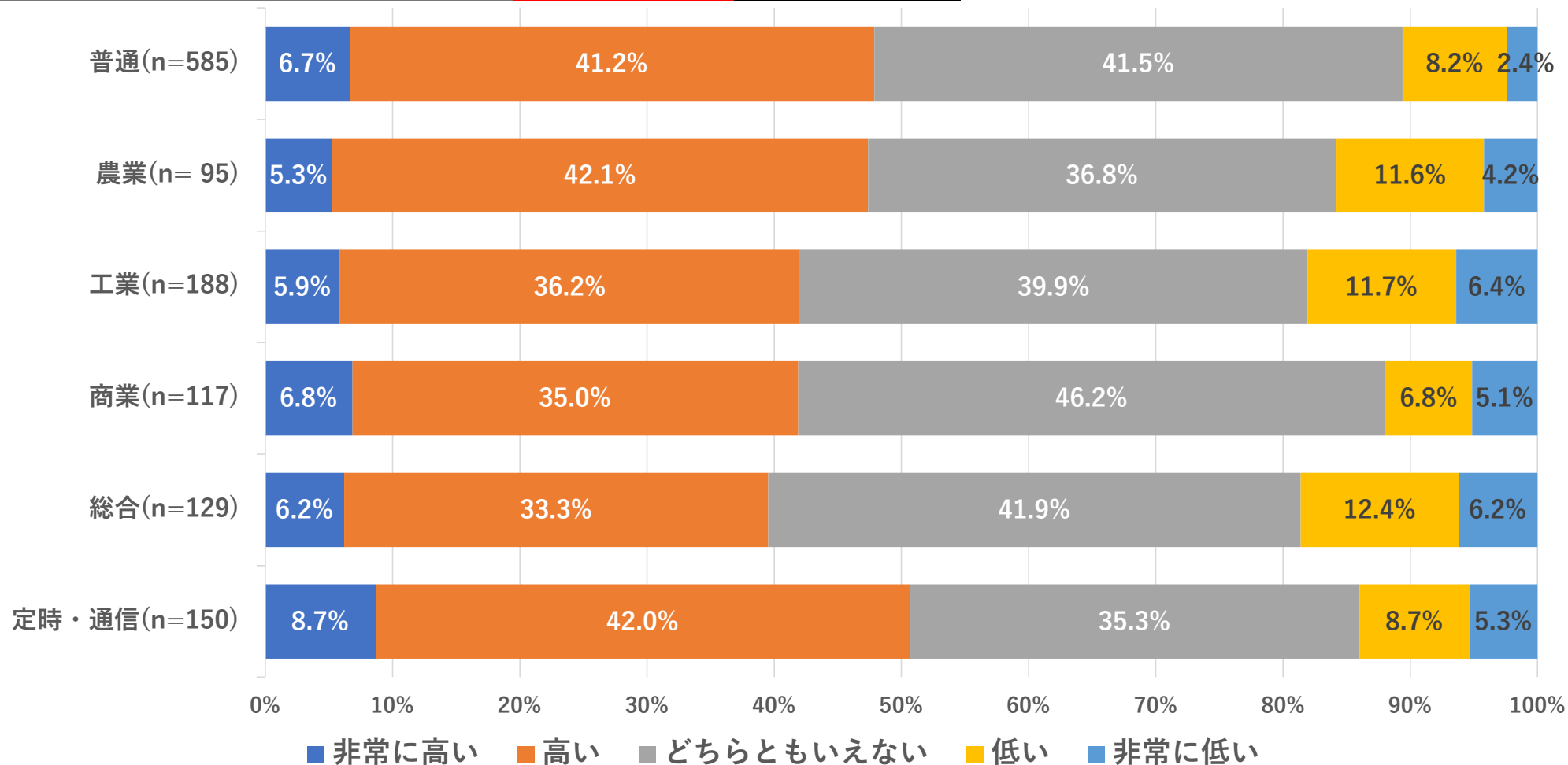
Q. 現在のあなた自身にとっての仕事のやりがいや働き方を含めた「ウェルビーイング(心身の充実度)」について、どの程度あてはまると思いますか。(対象:教職員)



○いずれの役職においても「非常に高い」「高い」と回答した割合が「非常に低い」「低い」と回答した割合よりも大きい。
○管理職の方が教諭等や事務職員よりもウェルビーイングが「非常に高い」「高い」と回答した割合は大きい。

ウェルビーイングについて②（教員の働き方）

Q. 現在のあなた自身にとっての仕事のやりがいや働き方を含めた「ウェルビーイング(心身の充実度)」について、どの程度あてはまるとお思いますか。【学校タイプ別】（対象：教職員）

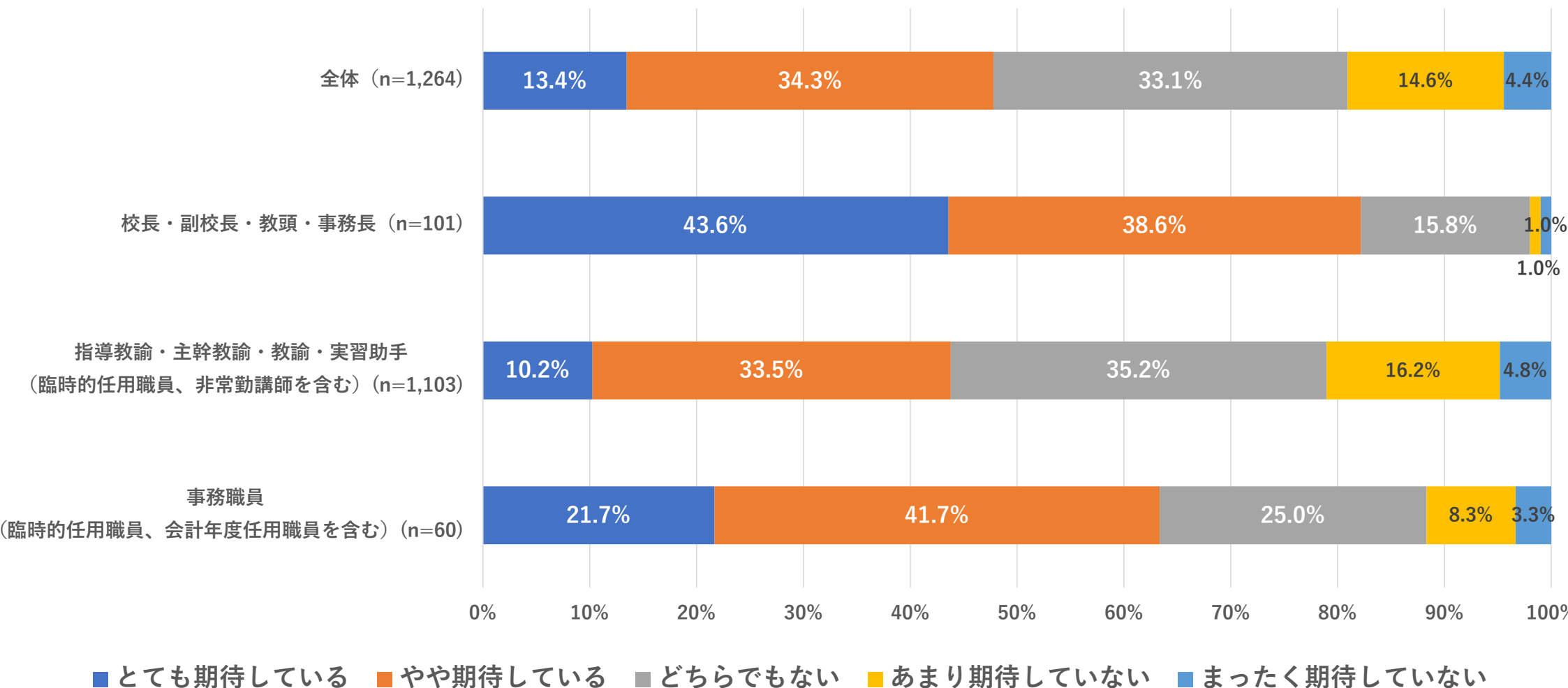


- いずれの学校タイプでも「非常に高い」「高い」と回答した割合が「非常に低い」「低い」と回答した割合よりも大きい。
- 工業高校や総合学科において、「非常に低い」「低い」と回答した割合が他のタイプの学校と比べて大きい。
- 商業高校では半数近くが「どちらでもない」を選択している。

4. 再編後の高校の姿について

再編の期待度について①

Q. 再編後の県立高校の姿についてどのように感じていますか。【役職別】(対象:教職員)

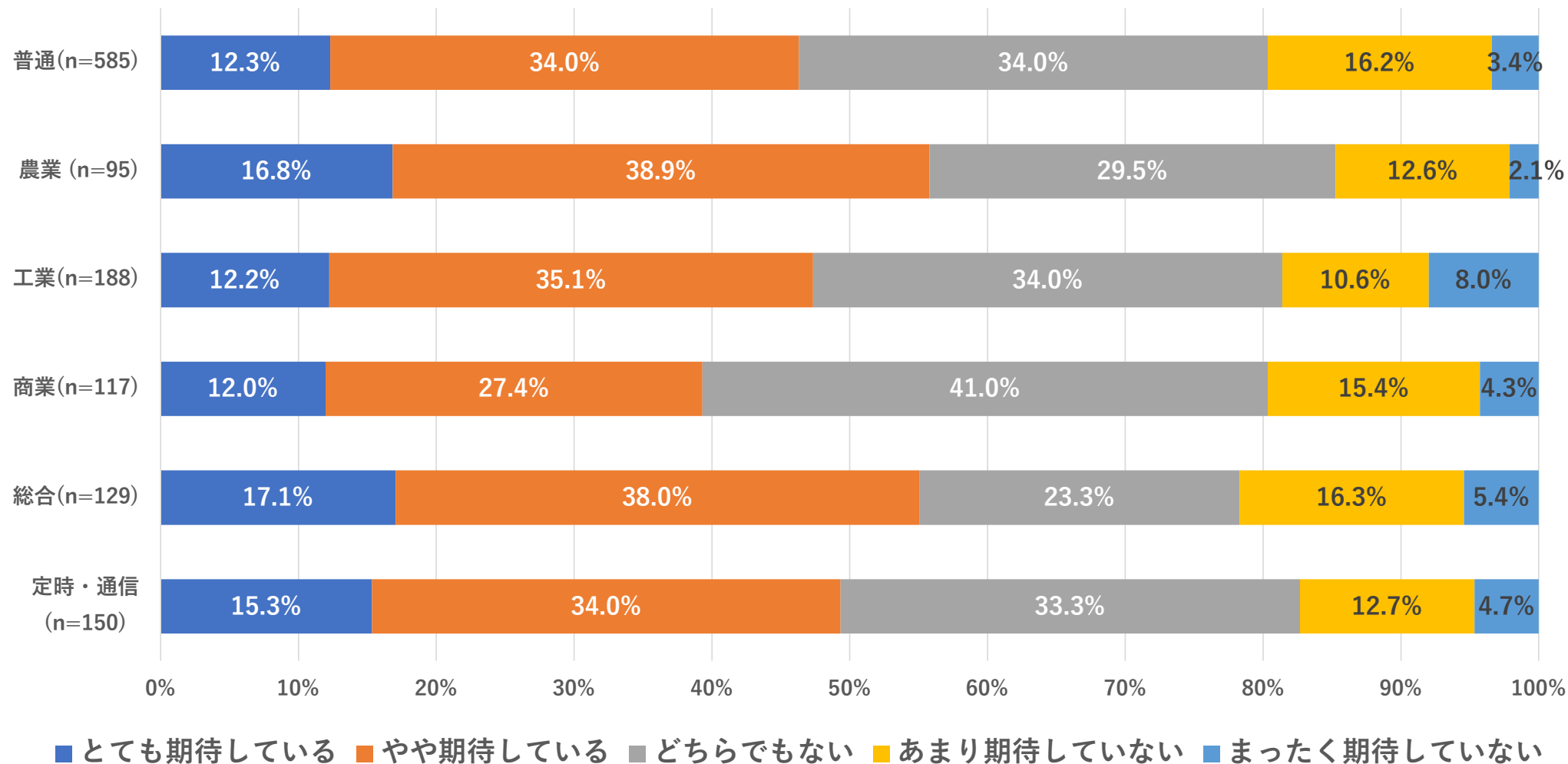


○いずれの役職においても「とても期待している」「やや期待している」と回答した割合が「あまり期待していない」「期待していない」と回答した割合よりも大きい。

○教諭等で「とても期待している」「やや期待している」と回答した割合が管理職や事務職員よりも低いといえる。

再編の期待度について②

Q. 再編後の県立高校の姿についてどのように感じていますか。【学校タイプ別】(対象:教職員)



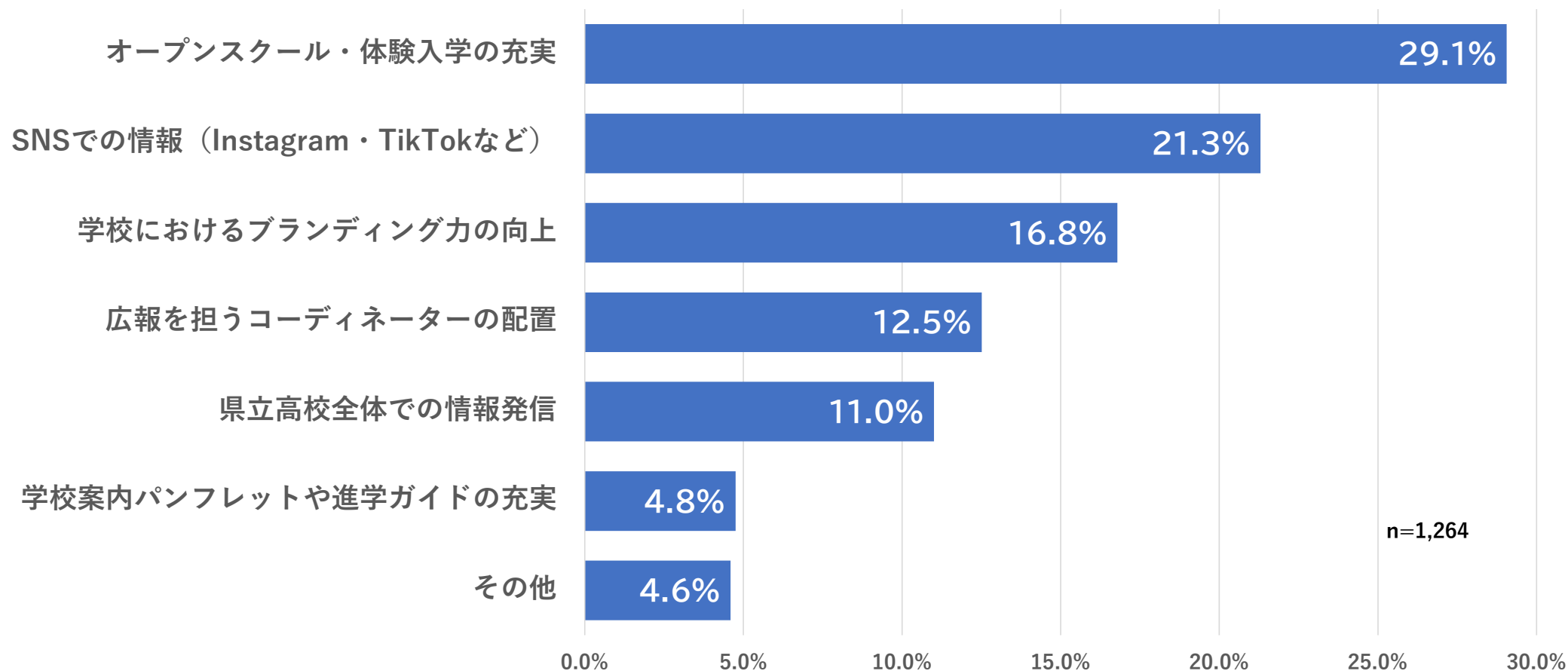
○いずれの校種においても、「とても期待している」「やや期待している」と回答した割合の方が、「まったく期待していない」「あまり期待していない」と回答した割合よりも大きい。

○農業高校や総合学科の期待度が高いと読み取れる。

5. 高校の魅力発信について

高校の魅力について①（高校の魅力発信）

Q. 高校の魅力を発信するために、どのような取組が重要だと考えますか。（対象：教職員）



○「オープンスクール・体験入学の充実」の回答割合が最も大きく、次いで「SNSでの情報」の回答割合が大きい。

○「中学生」や「保護者」は、「進学先(高校等)を選ぶ際に何を参考にするか」の設問で、「SNSでの情報」よりも「学校案内パンフレットや進学ガイド」の回答割合が大きいですが、「教職員」は「学校案内やパンフレットや進学ガイド」よりも「SNSでの情報」の回答割合の方が大きい。

6. 自由記述

自由記述①（魅力ある高校・学びの創出）

Q. 魅力ある高校・学びを創出するにあたり、こういったことが重要であると思いますか。

意見の一例 ※共通する意見は統合するなど一部編集済み。記述内容で分類し、出現頻度の高い順に並べている。

1) 学力・授業・学び直し

➤基礎学力の定着と思考力を伸ばす授業を重視。楽しい授業づくり、技術習得の機会確保、学び直しの仕組み整備など、学ぶ環境の質向上。

2) 施設・設備・環境

➤校舎やトイレを含む施設の清潔・快適性、最新設備、学習に集中できる居心地の良さ。規模の適正化や機能集約で行事や学習が充実する環境。

3) 進路指導・進路保障・実績

➤卒業後を見据えた丁寧な進学・就職指導、多様な進路選択肢の確保、進路実績の蓄積。生徒一人一人の希望に合う支援や補習等の個別最適化。

4) 部活動

➤学力重視校と部活動重視校の役割分担、部と学業の両立支援など学校方針と運営体制の明確化。

5) 教員の質・関わり

➤面倒見の良さ、指導力と人柄、主体的に向き合う姿勢。教員がいきいきと働ける雰囲気、必要に応じた専門職アドバイザーなどの配置。

6) 学校の特色化・差別化・独自性

➤地域内で同質化を避ける。カリキュラムや時程、コース設置などで焦点を絞り、スクールアイデンティティを確立して選ばれる学校へ。

7) 安全・安心・人権・支援体制

➤安心して通える安全性、不登校経験者も学べる包摂的環境、人権教育や多様性の尊重、保護者・生徒への支援体制の充実を重視。

8) 生徒主体・探究・生徒会・挑戦

➤生徒の主体性を尊重し、探究活動や挑戦を後押し。生徒会の活性化、意見反映の仕組みづくり、のびのび学べる風土など、自己決定と成長実感をも高める取組。

9) 校風・自由度・制服・楽しさ

➤自由度の高い校則や温かな校風、楽しさが感じられる学校。見え方（印象形成）も含め、生徒が「通うのが楽しい」と感じる雰囲気づくり。

10) 通学・交通手段

➤通学のしやすさや交通手段の確保が前提条件。スクールバスや通学補助など、通学の不安を減らす支援。立地や路線状況に応じた柔軟な対応。

11) 地域ニーズ・連携

➤地域のニーズ把握に基づく教育活動の設計。地域社会との連携を強め、地域から「期待される学校」であること。

12) 資格取得・社会で役立つ力

➤就職時や就職後に役立つ資格を取得する機会。進学志向が強い専門高校でも、社会に直結するスキル・資格を通じたキャリア形成支援。

自由記述②（再編整備に必要なこと）

Q. 次世代の高校を創生するという視点で再編整備を進めるために、県立高校にとって何が必要であると考えますか。

意見の一例 ※共通する意見は統合するなど一部編集済み。記述内容で分類し、出現頻度の高い順に並べている。

1) 教員数確保・人員充実・待遇改善

▶ 定数の充足・加配、正規採用の拡充、給与・待遇の改善で離職抑制と採用力を強化。SC・SSWや部活指導員など専門職の配置も進める。

2) 学校の役割定義・教育観の再設計

▶ 不易流行の観点で「学校で教えるべきこと」を再定義。スローガン先行や手段の目的化を避け、ICTも利点と弊害を踏まえた運用が必要。

3) 学級定員削減・少人数編成

▶ 30人さらには20人学級など、定員削減で個別最適な指導と学習保障を実現。学級規模の適正化を進め、きめ細かな関わりと学習到達の底上げ。

4) 業務削減・働き方改革・余裕創出

▶ 「やらないこと」を明確化し、外部化・簡素化で負担を軽減。土日確保など勤務環境を整え、教員が新たな取組に挑戦できる余白を確保。

5) 部活動改革・地域移行

▶ 専門指導員配置や地域移行で持続可能な体制へ。平日公式戦の認可など運営の柔軟化で教員の休日を確保。

6) 入試制度・私立との関係見直し

▶ 私立との入試日程調整や入試制度の公平性を確保。生徒・保護者にとってわかりやすく、公平で納得感のある選抜制度へ改善。

7) 予算・財源・施設整備・ICT

▶ 教育予算の重点配分と効果的な執行、新校舎整備やICT活用の遅れを解消。無駄を省きつつ学習環境の質の底上げが必要。

8) 学校再編・統合・拠点化

▶ 大規模化、総合校化により選択肢を一枚に集約するなど、拠点整備で教育資源を集中的に活用。

9) 少子化対応・規模適正化

▶ 学級数や定員の再編で規模適正化。魅力低下を防ぐ教育内容や支援の強化を同時に進め、地域の実情に即した持続可能な学校配置を検討。

10) 生徒と向き合う時間・個別支援

▶ 社会的弱者を含む多様な生徒に丁寧な支援を提供。教員の時間創出と連動させ、個に応じた関わりや伴走を強化し、学びの安心感と成長高める。

11) コンセプト明確化・差別化・独自性

▶ 各校のコンセプトを明確化し、県が学校の役割や地域内の立ち位置を整理。各校の違いを意図的に設計し、重複を避けて多様な選択肢を提供。

12) 通学支援・寮・交通手段

▶ 寮や下宿の整備、交通手段の確保を推進。通学負担を減らすことで募集範囲を広げ、教育機会の公平性と学校の魅力向上につなげる。

13) 進路指導・学びの多様化

▶ 多様な学びを選択できるカリキュラムを整え、進学・就職いずれにもつながる明確な学習ルートを提示。

14) 管理職リーダーシップ・意思決定

▶ 前例踏襲から脱却し、5～10年先を見据えた学校運営を主導。教職員とビジョンを共有し、改革の実行力を高める。

15) 研修・学び合い・外部連携

▶ 教職員の研修や視察の機会を保障し、民間や関係機関との協働で最新知見を導入。外部人材の活用と校内の学びを組み合わせた教育の質向上。

自由記述③（今後の高校教育の再編の方向性[1]）

Q. 今後の高校教育の再編の方向性として、あなたの勤務する学校や地域に関する考えなど、ご意見があれば教えてください。

意見の一例 ※共通する意見は統合するなど一部編集済み。記述内容で分類し、出現頻度の高い順に並べている。

1) 教育×地域・産業界との連携強化

▶地域・企業・自治体と結び、高校の学びを実践に接続。探究・PBL（課題解決型学習）や販売実習・起業家教育等を通じて、地元産業の課題解決や人材定着を促進。「地域とつながる学びのハブ」化を目指す。

2) 農・工・商の連携／総合学科化・段階的再編（賛否を含む）

▶農工商の横連携や総合学科化で選択肢拡大・効率化を図る一方、専門性希薄化の懸念や中途半端さの指摘も。段階的再編と実習設備の充実、専門性維持の設計がカギ。

3) 教職員の増員・適正配置／業務削減・働き方改革

▶生徒の多様化に対し、正規教員の増員・適材適所配置・代替教員確保を最優先。探究・広報・ICT・部活動等の業務肥大を是正し、授業研究と個別最適な指導に時間を回す体制の整備。

4) フレキシブルハイスクール（三課程併置）

▶全日・定時・通信の3課程を一体で設置し、時間帯・学び方・在籍形態を柔軟化。不登校傾向、就労・実習重視、学び直し等に対応し、転退学を減らして多様な進路実現を後押し。

5) 遠隔+対面のハイブリッドで離島・遠隔地の学び保証

▶離島・半島・小規模校の科目不足を遠隔配信で補完し、実習は対面で確保。共同配信センター整備や単位認定の柔軟化、受講支援と機器・回線のサポート体制の常設化。

6) 通学手段・スクールバス・交通費補助の整備

▶路線減便や費用負担増に対応し、公立でもスクールバス運行や定期代補助を拡充。統廃合時の通学圏拡大を見据え、公共交通と連動した全体的な通学手段の確保を最優先。

7) 大学連携・附属化／内部進学ルート整備

▶地元大学への接続強化、附属校化や成績連動の内部進学で受験負担を軽減。高大連携で高度探究・研究機会を拡充し、早期リクルーティングと地域定着に資する接続カリキュラムを構築。

8) 施設・設備・寮の充実（実習設備・冷暖房・トイレ等）

▶私学に見劣りしない校舎・実習設備・空調・衛生環境の整備と、離島留学・遠隔地通学のための寮・下宿の拡充を要望。設備の快適性は学校選択に直結するため予算が必要。

9) 探究学習・PBLの充実とコーディネーター配置

▶地域課題解決型の探究を推進しつつ、準備負担を減らすため外部連携コーディネーターや支援員を配置。深い学びの質保証と過度な負担回避の両立設計が必要。

10) 部活動の地域移行・特化／見直し

▶部活動の地域移行や外部指導者活用、特化校での集中的強化、あるいはキャリア教育へ振替など多様な再設計を実施。教員の超過業務を抑えつつ、生徒の活動機会を確保する仕組み。

自由記述④（今後の高校教育の再編の方向性[2]）

Q. 今後の高校教育の再編の方向性として、あなたの勤務する学校や地域に関する考えなど、ご意見があれば教えてください。

意見の一例 ※共通する意見は統合するなど一部編集済み。記述内容で分類し、出現頻度の高い順に並べている。

11) 不登校・特別支援・支援体制の強化

➤SC・SSW等の専門職配置、登校時間や履修の柔軟化、通信と対面の併用、校外の居場所モデル導入等で、中間的学びの場を整備。誰一人取り残さない個別最適・協働的な学びを実現。

12) 学校の特色化・ブランディングと進路別コース

➤学校ごとのミッションを明確化し、進学・就職・起業・国際など柱を立てたコース制や「くくり入学」で選択肢を拡充。広報機能の専任化・強化で魅力を的確に伝える体制を構築。

13) 統廃合・集約と規模の適正化（地域配慮）

➤近接校の統合や拠点集約で指導体制を厚くしつつ、一島一校の維持や小規模校の役割も尊重。設備移動困難な実業系は安易なキャンパス制回避、実習移動の負担軽減策が条件。

14) 単位制徹底・高校の大学化／自由度の高いカリキュラム

➤単位制の実質化、半期認定や45分1単位など柔軟化、内部選択拡大、実習・アルバイト等の単位化により、主体的選択と挑戦も評価。失敗から学ぶ文化を制度面から支える。

15) 私学無償化下での公立の魅力づくり（広報・差別化）

➤無償化と設備充実で優位な私学に対抗するため、公立の強み（多様な学び・地域接続・安全網）を明確化。専任広報、交通支援、先端分野人材の採用など選ばれる要素への集中投資。

16) AI・ICT活用（授業・経営・データ活用）

➤AI・ICTを授業設計や遠隔配信、学習ログ活用に組み込む。ツール導入だけでなく、支援スタッフ配置や研修・保守体制の常設で、現場負担を増やさず学びの質向上につなげる。

17) 離島留学・受入環境の拡充

➤離島留学制度の見直しと、寮・舎監等の専任配置で受入れを高める。島外生にも安心な生活・学習環境を整え、地域資源を生かした独自の学びで全国募集につなげる。

18) 少人数学級・定員見直し

➤20～30人規模の学級で、個別最適や協働的学び、発表・振り返りを密に設計。単純な「定員割れ」評価を見直し、学級規模の適正化を教育効果と教員配置の観点から再設計。

19) 進学校の機能強化・配置見直し

➤進学校の数や役割の最適化、理数・サイエンス系強化、大学接続の刷新で、県内全体の学力と進路実績を底上げ。地域格差や流出防止の視点から拠点校のミッションを再定義。

20) スクールミッションの明確化と運営のプロ化

➤県教委が設置目的・達成指標を打ち出し、学校は人事・広報・事務の専門職活用で運営をプロ化。現場のボトムアップと目標共有を両立し、持続可能な改善サイクルを回す。

